

要約 京都の経営経済動向調査結果 (2009. 4. 9)

- 2009年1～3月期実績と2009年4～6月期及び7～9月期予想 -

京都商工会議所
担当：中小企業経営相談センター
電話 (075) 212-6467

国内景気、自社業況とも過去最低水準まで下降 ～先行きは引き続き悪化傾向で推移～

概要

国内景気、自社業況とも大きく落ち込み、昭和47年の調査開始以降最低の水準となった。自社業況については、輸出の減少による企業収益の悪化、低調な内需動向など、経営を取り巻く環境が深刻化するなかで、すべての業種で不振を極めた。大企業を中心に製・商品在庫の過剰感が強まる一方、影響を受けやすい中小企業での受注・売上の減少や資金繰りの悪化が目立つなど、大企業、中小企業ともに各指標が急速に悪化している。今後、季節的な要因から観光関連の一部業種で一時的な改善の動きがあるものの、全体としては依然慎重な見方が強く、先行きについては引き続き悪化傾向を見通している。

(注) 2月下旬から3月上旬にかけ同調査を実施し、618社中526社から回答を得た(対象は、京都府内に本社、本店を持つ企業)。また1～3月期のBSI値は、2008年10～12月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス(▲)」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

I 国内景気動向

1～3月期BSI値は、▲45.7(前期実績▲41.1)と大幅に下降し、極めて厳しい景況感となった。今後の4～6月期はBSI値▲27.8、続く7～9月期は▲18.2と、下降幅は狭まるものの悪化を続ける見通しとなっている。

II 企業経営動向

自社業況(総合判断) 1～3月期BSI値は、▲35.1(前期実績▲14.8)と大幅に落ち込んだ。また、今後の見通しについても、4～6月期は▲19.7と、需要期にあたるものの全体的に力強さが感じられず、旅館・ホテルを除きすべての業種でマイナスとなり、続く7～9月期も▲17.9と、下降基調で推移する見通しとなっている。

※自社業況(総合判断)は、以下に続く「生産・売上高、工事施工高」から「資金繰り」までの6項目を総合的に判断したもの。

1. 生産・売上高、工事施工高 1～3月期のBSI値は、▲33.3と大幅に減少した。今後の見通しについて規模別に見ると、大企業、中小企業とも減少傾向で推移するものの、大企業は緩やかに減少幅を狭める一方、中小企業は改善のテンポが鈍く、規模間で差が見られる。
2. 製・商品・サービス・請負価格 1～3月期のBSI値は、▲14.0と大幅に下降した。今後の見通しについて業種別に見ると、4～6月期は、季節的要因から旅館・ホテルが上昇するものの、建設業、運輸・倉庫業、不動産業や非鉄、窯業・土石、鉄鋼などの製造業をはじめ、ほとんどの業種で下降した。続く7～9月期は、運輸・倉庫業、不動産業、建設業や、旅館・ホテル、料理・飲食などのサービス業をはじめ、多くの業種で下降する見通しとなっている。

3. 経常利益 1～3月期のBSI値は、▲32.3と、減益となった企業が大幅に増加した。今後の見通しについて業種別に見ると、4～6月期は、旅館・ホテル、料理・飲食が季節的要因で回復するものの、建設業や、精密機械、鉄鋼、木材・木製品などの製造業、機械金属卸などほとんどの業種で減益を見通し、続く7～9月期は、旅館・ホテル、運輸・倉庫業や、繊維製品、染色、鉄鋼などの製造業をはじめ、すべての業種で減益を見通している。

4. 所定外労働時間 1～3月期のBSI値は、▲21.9と大幅に減少した。今後の見通しについては、4～6月期は、鉄鋼、精密機械、電気機械などの製造業や、情報・事業といったサービス業、機械金属卸など、多くの業種で減少を見通し、続く7～9月期は、運輸・倉庫業や、料理・飲食、旅館・ホテルといったサービス業、染色、鉄鋼、木材・木製品などの製造業中心に多くの業種で減少する見通しとなっている。

5. 製・商品在庫 1～3月期は、「適正」62.3%、「過剰」34.8%、「不足」2.9%、BSI値16.0と過剰感が強まった。今後の見通しについて業種別に見ると、4～6月期は、窯業・土石や精密機械、繊維卸、繊維製造などで過剰感が残るものの、その後は全体として過剰感がやわらぐ見通しとなっている。

6. 資金繰り 1～3月期は、BSI値▲16.8と大幅に悪化した。今後の見通しについて規模別に見ると、大企業はゆるやかに悪化幅を狭めるものの、中小企業では引き続き慎重な見方をしており、規模間で差が見られる。

Ⅲ 当面の経営上の問題点

「受注・売上げ不振」(80.8%)が前回に引き続き第1位になった。第2位は「過当競争」(29.1%)で、第3位に「製・商品(請負)価格安」(27.9%)、第4位に「人件費負担増大」(19.6%)、第5位に「原材(燃)料高」と続いた。前回3位の「過当競争」が今回第2位に順位を上げ、前回2位の「原材(燃)料高」は今回5位に順位を下げた。

Ⅳ 企業経営の今後の方向(年1回3月時点調査で実施)

前回調査で第3位だった「省力化・合理化の徹底」(前回34.1%→今回40.5%)が第1位で高いポイントを示した。第2位には前回1位の「人材の開発・育成」(48.5%→39.9%)が挙げられた。また、前回調査で第2位だった「製品商品・新技術の研究・開発」(39.8%→38.8%)が、第3位となった。

国内景気	実績			予想						
	2009年1～3月期			2009年4～6月期			2009年7～9月期			
	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	
総計	▲45.7	0.4	91.8	▲27.8	6.2	61.8	▲18.2	8.3	44.7	
規模別	大企業	▲43.8	0.7	88.2	▲22.5	6.7	51.7	▲12.9	11.3	37.1
	中小企業	▲46.5	0.3	93.2	▲30.0	5.9	65.9	▲20.4	7.0	47.7
業種別	製造業	▲46.6	0.4	93.5	▲25.0	7.3	57.3	▲14.8	8.8	38.3
	卸売業	▲44.7	1.5	90.9	▲32.6	3.0	68.2	▲19.0	12.1	50.0
	小売業	▲44.4	0.0	88.8	▲29.6	3.7	62.9	▲18.5	7.4	44.4
	建設業	▲42.7	0.0	85.3	▲35.3	0.0	70.6	▲16.2	11.8	44.1
	不動産業	▲42.1	0.0	84.2	▲36.9	0.0	73.7	▲29.0	0.0	57.9
	運輸・倉庫業	▲48.3	0.0	96.6	▲31.7	6.6	70.0	▲25.0	6.7	56.7
	サービス業	▲45.3	0.0	90.5	▲26.0	9.6	61.5	▲24.2	4.8	53.1

※ B.S.I.値 = (上昇[増加、他] - 下降[減少、他]) × 1/2

自社業況 (総合判断)	実績			予想						
	2009年1～3月期			2009年4～6月期			2009年7～9月期			
	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	
総計	▲35.1	6.0	76.2	▲19.7	15.2	54.5	▲17.9	9.5	45.2	
規模別	大企業	▲32.8	8.0	73.5	▲16.0	15.6	47.6	▲11.6	13.6	36.8
	中小企業	▲36.1	5.1	77.2	▲21.2	15.0	57.3	▲20.3	7.9	48.5
業種別	製造業	▲38.2	4.6	81.0	▲22.5	12.7	57.6	▲17.6	9.3	44.4
	卸売業	▲34.1	6.1	74.3	▲19.0	13.6	51.5	▲19.7	6.1	45.4
	小売業	▲35.2	3.7	74.1	▲16.7	18.5	51.8	▲18.5	3.7	40.7
	建設業	▲23.5	11.8	58.8	▲35.4	3.8	79.5	▲11.8	17.6	41.1
	不動産業	▲25.0	11.2	61.1	▲13.9	22.2	50.0	▲11.2	11.1	33.4
	運輸・倉庫業	▲41.4	0.0	82.8	▲13.9	13.7	41.4	▲20.7	10.3	51.7
	サービス業	▲30.8	9.6	71.1	▲9.3	24.7	43.2	▲19.8	11.1	50.6